

小田原市総合計画審議会（第3回）会議録

- 1 日 時 令和3年9月30日（木） 午後2時00分から午後4時まで
- 2 場 所 小田原市役所3階 議会全員協議会室
- 3 出席委員 <対面参加>
出石 稔、木村 秀昭、有賀 かおる、遠藤 郁夏、木村 元彦、
佐藤 萌々花、ジェフリー・ギャリッシュ、鈴木 榮子、益田 麻衣子、
藤澤 恭司、丸山 秀和、渡邊 清治
<オンライン>
秋元 美里、崎田 恭平、関 幸子、信時 正人、平井 太郎、
矢部 寛泰
- 4 事務局 企画部副部長、企画政策課長、企画政策課職員4人
- 5 傍聴者 0名（Youtubeにて同時配信）

（次 第）

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1) 第1次答申（基本構想）に関する協議について
 - (2) その他
- 3 閉 会

1 開会

【進行：出石会長】

ただいまから第3回総合計画審議会を開催いたします。お忙しいところ、お集まりいただきまして、あるいはオンライン出席いただきまして、ありがとうございます。本日の会議も前回と同様に対面が11名とオンラインが7名という形で、併用で実施してまいります。円滑な審議について、皆様、ご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、奥委員、別所委員につきましては、ご都合により欠席となっております。

本日ご出席の委員は18名となりまして、総合計画審議会規則第5条第2項の規定による出席要件を満たしておりますので、本会議は成立しております。

会議に入ります前に、前回の会議で進行の確認をしましたので、改めて、今日進めるにあたって確認をしておきたいと思います。

ある意見が出された場合につきまして、その意見に対して、関連あるいは反対等の意見がある場合にはその関連意見の発言を求めます。したがって、違う案件の場合には、少しお待ちいただきます。

そして、その一つの案件について様々な意見が出てきた場合については、委員間討議を行い、事務局に見解を求めるということになります。

その議論の中で、あるいは事務局の説明等の中で結論が出るようでしたら、その案件については終了で、結論に至るまでに時間を要するとか事務局の方で検討してもらう場合については、事務局に一旦持ち帰ってもらうということになりました。

この形でよろしいですね。前回の確認事項です。ではこのように進めてまいります。

本日の市側の出席者については、お手元の資料2になります。

2 議事 (1) 第1次答申（基本構想）に関する協議について

【出石会長】

では、早速議題に入ってまいりたいと思います。「(1) 第1次答申（基本構想）に関する協議について」です。前回、闊達なご意見をいただいたことから、少し積み残しと言いましょいか、基本構想部分の全てについての意見は、お聞きすることができませんでした。

それに対して、書面で意見をいただく形をとりまして、事務局から聞いたところ、かなりの意見が出たということで伺っております。それらを踏まえたもので、この協議を進めてまいります。まだ発言が足りない、基本構想部分について、前回から今回にかけて意見を言いたい部分があれば、もちろん、その意見を伺う時間をとります。その前提として、まず事務局から説明を聴取したいと思います。事務局お願いします。

【企画政策課長】

それでは、私の方から説明をさせていただきます。今後の流れについて改めて確認をさせていただきます。

これまでの議論、本日協議いただいた内容を整理いたしまして、10月7日に正式に市長に答申をお渡しいただくという流れになります。

10月7日の答申までに、次回10月4日の審議会では、実行計画の部分の「生活の質の向上」に係る施策の協議を予定しておりましたけれども、始めの30分程、お時間をいただきまして、一次答申（案）に関する最終の協議の場を設けたいと考えております。10月4日に答申の最終案をお示ししたいと思っておりますので、そこで更に、追加、修正等について、議論、協議をしていただき、7日の答申を迎えるという流れを想定しているところでございます。

それでは、お手元の資料を確認いただきながら、内容をお話しさせていただきます。

まず、資料3でございます。これは、パブリックコメントです。一般の市民の方から、9月13日までを期限として、総合計画の行政案について様々なご意見をいただいております。このご意見に対しまして、あくまでも現時点での市の考え方を入れたものになってございます。パブリックコメントは、これからご審議いただく実行計画の部分、各施策についてのご意見をいただいているところですが、本日お手元にお配りしたのは、そのうちの基本構想に係る部分を抽出して、お示したものでございます。

続いて資料4でございます。市議会の各会派から、行政案に対して意見が出されておりますので、同様に現時点での市の考え方を入れまして、整理をさせていただいたものでございます。

資料3と4につきましては、まだ未定稿ということになってございます。基本構想はこれからまだ修正がかかる可能性もありますので、あくまでも現地点での市の考え方を示したというものになってございますので、資料3と4につきましては、本日のこの会議の場限りとさせていただきたいと思います。なお、ホームページにも通常ですと、皆さんにお配りしている資料をアップしておりますが、資料3と4につきましては、当面ホームページへの掲載を見合わせまして、最終的に確定したものを改めてホームページの方に掲載をしていくということを考えておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

続きまして、参考資料1でございます。これまでのこの審議会でのご意見、それから前回の会議終了後、各委員さんの方から、書面でいただきましたご意見を整理したものを一覧にしております。こちらにつきましては、各委員さんの発言者のお名前も入っておりますので、こちらについてもホームページの方の掲載は控えさせていただくという形で考えております。

それから続いて、参考資料2を飛ばしまして、参考資料3でございます。こちらは、本日まで、この審議会を出していただいたご意見を踏まえまして、事務局の方で、答申のたたき台、いわゆる骨子になるものを整理させていただいたものでございます。もちろん答申は本日のご議論、それから4日の最終的な確認のご議論、これらを踏まえまして、最終的に確定するものでございますけれども、現時点までで出された意見を盛り込んだものになってございますので、こちらをご覧くださいながら、本日の協議を進めていただければというように考えております。

最後に、参考資料2でございます。こちらは市民意識調査のアンケートの概要版となっております。今後、実行計画各施策の議論等に入っていただく際にも、こちらを参考にご議論いただきたいというように思っております。今回、この調査の実施分析にご協力いただきました平井委員より補足説明をお願いしたいと思いますけれども、会長、よろしいでしょうか。

【出石会長】

では、平井委員、恐れ入りますが、お願いできますでしょうか。

【平井委員】

皆さんこんにちは。貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。会長にも感謝申し上げます。聞こえておりますでしょうか。

お手元の参考資料2の方をご覧くださいませでしょうか。全部で20数頁に渡るものになっております。右肩上に番号が振られておりますが、スライド2をご覧くださいませように、今回、3,000配布させていただきまして、そのうち54.9%ご回答いただきました。もしかすると委員の皆様にもご回答いただいているかもしれません。この場をお借りして御礼申し上げます。

ます。非常に市民の皆さんの関心が高く、こういった類似の調査では、まあ地方でも5割いけば良いというところなんです、非常に多くの市民の皆様にご協力いただけたという形になっております。

続きまして、3枚目が調査の全体像なんですけれども、少し飛ばさせていただきます。

6枚目でございます、小田原市に対して持つイメージのうち、小田原市から転居したいと考える理由でございます。こちらは市政の最も重要な成果指標として、住み続けたいかということに関するご回答なんです、9割の方は、当分あるいはずっと住み続けたいということで、前向きにお答えいただいておりますが、1割弱の方が、転居されたいとお答えになっております。詳しくは、別のスライドに掲出しているんですけれども、こういった方が転居されたいとお考えなのかと言いますと、20歳代から未婚の方、また年齢と関わっておりますけれども学生の方、そして居住年数がまだ、5年に満たない方、そして、逆に世帯収入が1,000万円を超える方というのが、転居をご希望されているということになっております。

今回、調査にお答えになった方が、ご高齢の方に若干偏っているということがありまして、今回9割の方が住み続けたいとお答えくださっているんですが、若年層また居住年数が短い方に関しては、このように転居されたいというお気持ちがあるということで、ここは非常にやはり若い方に向けて、施策を打っていくということが求められているかなと思います。他市でも似たような傾向にはありますけれども、特に、小田原市の場合は顕著だと考えます。

続きまして、次の7枚目です。こちら、前回ご議論ございました、若者活躍のところなんです、下の方のグラフを見ていただきますと、20歳代と30歳代が他の年齢層に比べて、若者活躍を実感できていないということ、それから20歳代の方の場合は、特に、お仕事に就いている方が、活躍感が低い。30歳代は、逆にお仕事に就かれていない方が、活躍感が低いということで、30歳代ですとやはり仕事がないということが非常に活躍感に響いてくることがあります。また、この20歳代、他の年齢層もそうなんですけれども、やはり仕事をする中での活躍感の低さというものが見えてくるのかなと思っております。

次のスライド8は、女性活躍に関わる部分です。こちらは、総じて女性の方が活躍感が低いということがあるんですけれども、学生さんは、前回、佐藤委員からもありましたが、活躍感が高くなっております。注目していただきたいのは、下のグラフにあります、今、学生さんのことがありましたけれども、事業主婦の方、あるいはパートやアルバイトをなさっている女性、こういった方達の活躍感が男性よりも女性が低くなっているということで、この辺り、やはり注目した方が良いかなと思っております。

その他、様々、今ご紹介しましたように、ざっくりした質問でも、属性ごとに大分、傾向が違ってきているということがございますので、お時間がある時にご参照いただきまして、こういった重要な施策に関して、ターゲットを絞った施策の展開が、これから求められる、そういった時の参考にお使いいただけたらと思います。お時間もありますので、以上になります。ありがとうございました。

【出石会長】

ありがとうございました、平井委員。大変参考になるデータが出ていたと思います。今後の議論の中でもまた、使えるのではないかとというふうに思います。

それでは、ここから議論に入ってもらいたいと思いますが、ベースになるのは、前回、初回から配られている行政案ですね。初回に出された資料6の「第6次小田原市総合計画行政案」の、とりわけ基本構想は14～17頁までですね、それと前回までの意見、そして、その後の書面。今日も出されていましたが書面意見等を踏まえてたたき台があります。たたき台も説明してもらおうと時間がないのでしませんが、出された意見を踏まえて、事務局に議論の元となるものをつくってもらっています。これらを使いながら、引き続き、この基本構想の部分について議論したいと思いますが、まず今日の資料の参考資料1、皆様からいただいた意見について、修正、補足、追加等がありましたら、お願いしたいと思いますが。

大丈夫でしょうか。また、ご発言の中で引用していただいたりとか、あるいは追加とか補足とかしていただければと思いますから、よろしいですか。

はい、ではこのまま進めてまいります。

私は、前回の女性活躍のところが少し気になっていて、相当議論が盛り上がって、若者女性活躍ですね、17頁、これについて両論があったわけですね、基本構想にどう書くかということにもなってきた、議論としては別に対立している議論ではないと思うんですけども、どうアウトプットするかという問題もありましたが、この辺り、何か事務局の方でその後、内部での検討はあったのでしょうか。

【企画政策課副課長】

ありがとうございます。お手元の参考資料3、たたき台（論点整理）の2頁目に、今回事務局の考え方を、一旦ですけれどもお示しさせていただいております。会長がお話しされた通り、両方とも正論だという認識に立ってございます。ただ、今現状、推進エンジンの公民連携、若者女性活躍の最後の部分では、年齢、性別に関わらずチャレンジし、活躍できるまちを目指していくという大きな方向性を示させていただいております。

先ほど、平井委員の方からもお話がございましたし、前回のご議論でもありましたけれども、基本的には年齢、性別に関わらず、それぞれの選択でチャレンジして活躍できるまちが前提としてあるんですけれども、当然活躍したいんだけどもできてない現状であったりとか、こういったところを捉えて、若者女性活躍ができる環境づくりを進めていくという考えでございまして、前提は誰もがと、誰もがという表現がなかなか難しいところではありますけれど、チャレンジしたい人がチャレンジしていける環境が前提にございまして、特に現状の課題感、あるいはこれから先の将来も見据えた上で、若者女性ということで考え方を整理させていただいております。

当然、この若者女性という言葉が出てきたと、先ほどアンケートでございましたけれども、属性は、またさらに細くなっていくところでございます。働いている方、主婦の方、あるいは働いている中でもちょっと違ったりというような状況もございしますので、言葉が出てしまうと全ての方向性として見られる節はございますけれども、事務局としては、そうは捉え

てなくて、全体があった上で、特に課題があるので、ここを推していきたいという考え方でございます。

あと、前回もう1点、ライフスタイルを選択できることが大事だというお話もございました。実際、暮らしていく中で自分たちの暮らしを自分たちで選択していくということを、これができることは素晴らしいというふうに思っておりまして、この点に関しましては、第1回目の資料の行政案の14頁に、直接的な表現とまではいかないんですが、「1 まちづくりの理念と2030年に目指すまちの姿」の中で3段落目、「住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう」という文脈も置いているところでございます。この辺りの表現にプラスアルファで暮らしを選択、ライフスタイルを選択しながら、というような記述を加えていく方向性もあるのかなというふうに事務局としては考えてございます。全てお答えは出来てないんですけれども、これまでの間で事務局が検討した内容は以上になります。

【出石会長】

そうしますと、若者女性というところは、全ての市民が対象なんだけれども、やはり表現としては明示したいということです。それから、ライフスタイルのところも、表現が非常に柔らかいというか抽象的だけれども、今の14頁のところで捉えているということです。

ではまず、前回からの続きですので、この2点についてご発言ありますでしょうか。会場は手を挙げていただいて、オンラインは手挙げボタンを。

とりあえずはよろしいですか。では、次回も30分ありますし、またその後で気がついたら、ご意見いただいて結構です。それでは、この後、今日はこのテーマが全てですから、それでもそんなに時間がないんですけれども、闊達なご意見をいただきながら進めてまいりたいと思います。総合、基本構想全般について、行政案あるいは今日のたたき台を使いながら、それは良いと思いますが、ご意見をいただければと思います。どの点からでも結構です。ご意見ありましたら挙手をお願いいたします。

もう1回事務局に確認ですが、この参考資料1に書かれたいろいろな意見がありますね。私もその後書面で出しましたが、これについてはどう捉えれば良いですか。皆さんいろいろ意見出されたものについて、この参考資料3があるけれども、それに対しての答えは、事務局の所見というのは、とりあえず、ここでは、あるわけではないですね。

【企画政策課長】

はい、まだ資料の上で、お示しはしていません。

【出石会長】

極論言うと、全部答えてほしいということかもしれないけれど、それはちょっと時間がないから、これは市としては、一応承知はしているということですね。ですので、今日は書面では出ているものの、やはり、ここで他の委員からの意見も当然あると思うので、前回までもそうですが、今回書面で出されたものの中で、ここを当局からの所見を求めたいとか、他

の委員からの意見を求めたいというところを出してもらうのが良いでしょうかね。もちろん、書かれてないものでも結構です。皆様が出されたものの中で、この点を特に確認したいというのがあったら、ぜひお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

考えている間に、私が出したものについて確認しますね。行政案の15頁で、前回、他の委員がおっしゃられていた「(2)地域経済の好循環」のところで、企業誘致だとか産業の創出はあるけれども、起業、ベンチャーはやっぱり必要なんじゃないかという委員の意見があって、私もそう思ったところだったので意見として出させてもらいました。この辺りは、いかがでしょうか。

経済の好循環についての考え方、企業誘致というのは外から持ってくることだし、産業というのは、広い意味でのその分野の創設だけれども、それぞれのミクロというか個別の市民の起業精神というか、それらを高めていった形で経済を回していくというようなことは、あっても良いのではかという意見ですが、委員の中から何かこれについてコメントはありますでしょうか。はい、信時委員お願いします。

【信時委員】

まさにその辺は、僕も言ったような気がするんですけども、それなりの仕組みをつくるのはかなり、自治体の人たちは大変なのかもしれないんですけども、先ほどあった、若者とか女性の活躍というのと、すぐ結びついてくると思うんです。だから、新しく起業ができると、もし、たやすくできるとすれば、自分もここで活躍できるっていう気分にもなると思いますが、その辺のチャンスを活かすことが出来ることは、住みやすさとか、小田原を選びたくなるということで、若者女性の活躍みたいなのところに結びついてくるので、ここは割と必要なんじゃないかなというように思います。まあ、関連意見です。ありがとうございました。

【出石会長】

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。はいどうぞ。

【丸山委員】

先ほどありました、私も今、労働組合の集まりがあり、メンバーなんですが、やはり、企業、また、元々あった大きい企業がなくなってきています。例えば、ユアサさんもそうですし、大きかった、今まで支えてくれた企業がなくなってきている段階で、やはり、そこを大きくしない限り、先ほどの、働きやすい、住みやすい、将来もずっと働きたいっていう気持ちが湧いてこないと思うので、ぜひ、今の賛同する意見なんですが、ぜひそこを、最近見て、それがあまりないのかなと、ただ企業を待っているだけではなくて、やはりこちらがアプローチをしない限り、なかなか企業はこちらには流れてこないんじゃないかなと思いますので、ぜひそれを踏まえて進めていただければありがたいかなと思ってございます。私達、労働組合の方も大分人数も減ってきていますので、なかなかそういう機会ですね、いろいろな企業

の皆さんの働ける環境をどうにかつくって、この小田原に来て働きたいんだというのを、ぜひつくっていただければと思います。

【出石会長】

ありがとうございます。それでは、関委員お願いします。

【関委員】

ローカル・ファースト研究所の関です。どうぞよろしくお願いいたします。

前回も、この項目については意見を述べさせていただきました。会長が言われる通り、企業誘致、外から持ってくるだけではなく、内発的な産業、それと人材育成ですね。起業というのは、やはり人がしっかりと、起業人としていない限り、創発型の産業って起きないということになりますので、人材育成と共に、実は産業というのは、課題があるとそれを解決することを産業にできるということがあるんですね。

それともう1つは、政府の大きい方針、お金の流れを見ると、産業ができます。これからのお金の流れは、SDGs 中にある地球温暖化の環境政策、農業、林業、これは実を言うと、今までの新しい形での農業、林業という産業ではなくて、まさに DX、デジタルトランスフォーメーション、それと IoT や AI を使った新しい形のスマート農業みたいな形で、今までは、「えっ農業？」という形で言われた方ですが、これからは農業がとても重要になります。

もう1つは、SDGs の視点からの産業化、それともう1つが、やはり 2015 年にできました官民データ活用推進法といって、いわゆるデジタルガバメントですね、実を言うと、これからお金を使っていくのってというのは、実は行政のデジタル化というところに、民間企業のまさに英知とノウハウを貸していただいて産業化するところが、実はお金も含めて大きくなります。9月1日にデジタル庁ができたというのは、まさにその通りで、自治体のガバナンスのデジタル化と共に、新しい生活様式を含めた、例えばお金を給付するのに、韓国ではたった20日間で全ての国民に給付金が配れるぐらい、ある意味でマイナーバーカード制がしっかりしているというところもございまして、そういう意味では、これから市民生活の中のデジタル化を進めるといって産業が大きくなると思いますので、背景にはそういうものがあると思って、書きぶりを入れていただきたいなというふうに思っています。以上になります。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。平井委員。

【平井委員】

ありがとうございます。今、関委員がおっしゃられましたように、課題解決という視点は非常に重要ななと思っております。身近なところでは、今回の市民の皆様へのアンケート調査で、やはり小田原の課題点と言いますか、そういったところも様々出ておりまして、どうしても、住み続けのネガティブな方で、理由としては、ざっくりでは交通は便利なんだけれ

ども、辛いところに手が届かないといったところの交通の問題であるとか、それから娯楽や余暇がちょっと足りないとか、そういった点が指摘されておりまして、これらを例えばターゲットにしていくなとか、それから、先ほど、関委員もおっしゃられました SDGs を展開する上で小田原は自然の豊かさは、市民も誰もが認めているところで、こういった自然をどういうふうに、エネルギーも含めて活用していくのか、こういった起業支援にターゲットを絞っていくというのも、小田原らしい取り組みかなと思っています。そのようにいたしますと、このまちづくりの3つの目標の間も繋いで、バラバラにではなくて、相互に3つの目標間を連携させて、生活の質の向上と経済の好循環といったものを関連させていくことができるという点でもターゲットを絞っていくのが1つあるのかなと思います。

あと、各地方都市では、特に女性に関しては、いきなり大きな起業というよりは、小商いという言葉がありまして、年間100万から200万、300万といったようなスケールでも、自分の自由になるお金を手にする、そういったことを支援する取り組みも広がっておりまして、特に、今、活躍感の低い方に手が届くような、そういった支援を起業支援という形でもつくっていくことができるのではないかと考えております。以上です。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。すべての分野に関わる感じでしたね。

それでは、この件はあと秋元委員からいただいて、事務局の確認をしたいと思います。秋元委員、どうぞ。

【秋元委員】

秋元です。よろしくお願いします。女性活躍というところで、どうしてもお話をしたくなってしまうんですが、実際、私、SNS等で女性のお友達が結構おりまして、彼女たちがここ最近のブームとか、私の中で、すごく盛り上がってるなと思うのは、個人事業主として起業するということですね。やはり、雇われるという感覚よりも、自分が個人事業主で企業から外注という形で仕事を受けるような、そういうふうな展開をしてる方は結構多いなと思うんですね。あくまでも情報の共有なんですけど、そういう方々が困っているのは、税金はどう納めるんだろうとか、企業では社労士さんがやるような仕事を自分達でやらなければいけないので、ちょっとよく分からないとか、そういう質問が私に結構来たりするので、女性の起業というところで、そういうものもフォローできるような体制があると、すごく喜ばれるし、そういうセミナーを見つけられている女性というのは結構いるので、何か私のこの発言が良いことになると良いなと思うんですけれども。以上です。よろしくお願いします。

【出石会長】

ありがとうございます。それでは、これについては今の起業、それから様々な分野に関わるという感じが、今皆さんの意見から出ましたが、市の方から何か見解ありますか。

【企画政策課副課長】

ご意見ありがとうございます。1点目の起業に関してでございますが、基本構想の中では、起業的な側面、多少書いてあるところではあるんですが、企業さんと呼んでくる側面の方が強く出ている感じがするために、皆さん起業を打ち出していった方が良いというお話をいただいているんだと思います。実行計画の中でも誘致する部分と起こしていく部分、双方、重点施策の中では掲げておりますので、それを受ける形で、今回、委員の皆さんからいただいた、コロナ禍で働き方は変わってきている、あるいは、世の中が変わってきている中で、小田原の立地を生かした起業ですとか、ここは環境との絡みがあるかもしれないですし、あとは前回からもお話いただいておりますけれども、ローカルベンチャー、内発的な地域内での小さなビジネスの展開ですとか、もしくは、先ほどもございました、お年寄りから、男性、女性関係なく、起業する人をサポートする体制ですとか、あとは前回ちょっと出たんですが、ベンチャーキャピタルの話も出ましたけれども、こういう形で起業の側面を強く打ち出していくという方向性は、我々としても感じているところでございますので、ご意見をいただきながら、この基本構想の表現の部分で、修正をかけていく考え方かなというふうに認識しております。

もう1点、経済、社会、環境との関係でございますけれども、多くの委員の皆さんからSDGsの視点で経済、社会、環境との関連をとということがございました。あともう1点、関連で言いますと、デジタルですとか公民連携みたいなところは、この経済、社会、環境とどう関わりをもっていくかという、この2つの論点があるというふうに思っています。前者のSDGs的な観点での経済、社会、環境の関係で言いますと、エネルギーの領域の環境的な側面は、実は経済に繋がっています。農業、林業、水産業とも関わってきます、ですとか、あるいは健康づくりも経済の側面があるかもしれないといったようなところで、ここの3つが関連しているところがございます。今日も平井委員の方から、3つの目標を繋ぐような指標設定をというようなお考えもいただいておりますので、考え方としては、この関連についてどこまで言及できるかというのはあるのですが、基本構想の中でも記述を加えていくのか、修正をかけていくのかというのはございますが、手を入れていきたいなというふうに考えているところでございます。以上です。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。それでは他の部分で結構です。どなたからでも、ありましたら。はいどうぞ。

【木村（元）委員】

この前、最後言いそびれたんですけれども、11頁の行政案のところで、今日も平井委員の方から詳しい説明があったんですけれども、全ての人が全てではないんですけれども、住み続けたい、転居したい理由のところの上の方と、住み続けたい理由の方にもあるんですけれども、防災面での不安というのが書いてあるんですね。この転居したい理由のところの上位

の方に。それで 16 頁のところの「気候変動にも対応した持続可能なまち」という 2030 年の姿のところの一番下に防災について書かれているんですけども、実は、私が住んでる地域もそうなんですけれども、非常に高齢者同士の居住が増えていたり、あるいは高齢者 1 人住まいの方も増えているというようなことで、今、副会長の木村自治会総連合会長さん中心に、富水なんかは緊急時の名簿ですか、それを今作成を、10 月中に全ての家庭で世帯で各自治会長に出すようになっているんですけども、そういうものを出すというようなことをなぜするかというと、やはり自分の力で、一番下に書いてあるんですけども、「自らが自らの命を守る」って書いてあるんですけども、これができない、そういう世帯がすごく、これから 10 年後の中には、すごい増えてくると思うんです。これは医療の問題もあると思うんですけども、そういう中でこの「自らが自ら命を守る適切な行動」ができない家庭が増えているので、ここは「地域との連携を図り」とか何かそういうものを 1 文入れた方が良いんじゃないかなというふうに思います。

【出石会長】

はい、端的に言うと 16 頁のところの記載について、「自ら守る」のが難しいので、地域との連携があったら良いのではないかと、この点について、他の委員から何かございますか。では市の方からどうでしょうか。今の意見につきまして。

【企画政策課副課長】

はい、ありがとうございます。具体的な内容になってまいりますと、重点施策の方でも、例えばで言いますと、21 頁に防災・減災を位置付けさせていただいております、21 頁の中段(2)の所ですけども、基本的には地域の防災力を高めていくというスタンスを書かせていただいております。ただ、初動の部分では、どうしても自らの力という部分が、当然その地域の力と相まってという流れになってまいりますので、行政のスタンスとしても、ここは自らの行動と地域の支え、当然、全体のオール小田原としての防災力を高めていくという流れは想定しているところでございます。お話しいただいたのは恐らく、課題として自ら動けない方もいらっしゃる中で、そこはやはり、地域の支えというようなものも記述された方が良いという認識だと思っておりますので、ここに関しては検討させていただきますけれども、基本的な考え方としては、じゃあ市民の皆さんそれぞれで頑張ってください、というスタンスではないというところでございますが、ちょっとここは、表現を検討させていただければなというふうに思っております

【出石会長】

よろしいですか。ここは、2030 年どうなっているかという、バックキャスティングですね。だからある意味、ご主張されたような協働の連携があるからこそ、自立が進んでいくという考え方もある。書き方は、市の方が今考えるということで、そういうことでよろしいでしょうか。

はい、他の点でいかがでしょうか。はいどうぞ。

【藤澤委員】

すみません、議論途中での質問で恐縮なんですけれども、参考資料3で、一次答申の構成ということで、前文、計画全般、基本構想という項目立てがあるんですけれども、このうち計画全般というのは現在のたたき台というか、行政案の方にはないんですが、それで中身的にも計画策定上の課題を掲記されたような表現になっているんですけれども、この位置づけは一体、どういうものでしょうか。

【企画政策課副課長】

まさに、行政案の方は序論という形で、計画の基礎的な条件ですとか、アンケート調査を含めて載せさせていただいて、基本構想に入っております。ここで計画全般と置かせていただいたのは、まさにその計画そのもののあり方も含めたところですが、まず冒頭の議論の中で、この計画がどういうものなのかという議論を、総合計画審議会の委員の皆さんの中でも議論いただいたところがございます。記憶に鮮明に残っているのは、若い方の声を2030年に向けてどうしていくのかという議論を筆頭に、計画の評価推進の話ですとか、分かりやすさ、あるいはSDGsの視点の盛り込み方というところがございますので、そういったご意見を踏まえて、総合計画審議会の意見として、全般の考え方として、置かせていただくのはどうだろうかという趣旨で、たたき台の方に置かせていただいているところでございます。

【藤澤委員】

この審議会からの意見というような内容ですか。はい、ありがとうございます。

【出石会長】

はい、私もよく分からないけれども、それでは、この計画全般というのは、ここで議論が出てきたことを挙げているということですよ。はい、要は最終的には収れんされていくということの頭出しですね。はい、他いかがでしょうか。

【信時委員】

先ほど、平井先生につくられた表の中で気になったのは、10頁の中で、満足度と重要度のところで、重要度が高いけど満足度が一番低いのが市立病院の運営と書いてあるんですけれども、11頁にも整理して書かれてるんですけれども、今、資料を見ていると、案の中で例えば病院と言いますか、医療の部分しかないんですけれども、明らかに、重要だけれども満足度が低いということに対しての施策というのは、これでだけで良いんでしょうか。他にあるんだったらあれですけれども、その市立病院の経営を、じゃあどこが悪いのかということはチェックされてるということで良いんですか。ちょっとよく分からないので、その辺ご説明いただければと思うんですけれども。

【出石会長】

はい、ではこれは市の方からご説明をお願いします。

【企画政策課副課長】

医療の分野、これ市立病院、特出しで重要度が高いんだけどなかなか満足度が上がってないというところで例示の仕方があるんですけども、医療に関しましては、行政案の頁でいきますと 20 頁になります。重点施策の中の 1 丁目 1 番地のところに、「医療・福祉」ということで「安心の地域医療体制」を載せさせていただいております。

市民の皆様の感覚として、まだまだ満足できないよという状況の中で、現在は市立病院の建て替えの話が進んでいる状況でございます。ただ、箱物ができれば良いというお話ではございませんので、地域の医療体制を連携しながらつくっていくというところで、重点の 1 丁目 1 番地という置き方をさせていただいております。

【信時委員】

ああ、なるほど、分かりました。

【企画政策課副課長】

これに連動して、姿として、基本構想の 15 頁の上から 3 行目、2030 年の姿がございますけれども、1 ポツ目に「高度な医療とともに、24 時間 365 日安心して医療を受けることができる。」と、ここを目指していくんだというような表記をさせていただいているところであります。

【信時委員】

はい、分かりました。

【出石会長】

よろしいですか。その他、いかがでしょうか。ご意見、ご質問どうぞありましたらお願いします。

【渡邊委員】

医師会から来てます、渡辺です。

今の市立病院の関係、あと医療の関係に関しては、今、医療連携というのを、国が立ち上げている地域医療構想というのと一緒に絡めながらやっているところなんですけれども、もちろん市立病院が老朽化していて、機能が十分に果たせないというハードの問題があるんですが、それは 1 つ 1 つクリアしながら今、会議をしているところです。また、ソフトに関して、使い勝手が悪いという印象が市民の中に浸透しているところが、マイナスの面でこうい

う結果に繋がっていると思うんですけれども、その辺も含めまして、ソフトのいわゆる運営面ですね、その辺に関しても話し合いを進めているところです。以上です。

【出石会長】

ありがとうございました。その他はいかがでしょう。

市の方で、前回以降出てきた書面意見の中で、何か議論になっていることはありますか。内部で検討している中で。大体網羅されている感じですかね。

【企画政策課副課長】

ありがとうございます。参考資料3のたたき台の方には、書面意見の方も載せさせていただいているところではございます。全体の構成を考える上で、2回目でも、いくつかご意見をいただいているところではあるんですけれども、ちょっと気になっていると言いますか、ここはどういう考えでいこうかというのは、いくつかございまして、例えば、遠藤委員からいただいております、「世界が憧れるまち」を目指していく上で、先ほどターゲットの明確化みたいなお話が出ましたけれども、どこをターゲットに考えていくのか、あるいは「住む」と「行く」とは違うよねとか、あるいは、外から見た視点は大事になりますよねというようなお話をいただいております、ぜひ他の委員の皆様からも、この辺りの「世界が憧れる」に関しましてのご議論をしていただけると、事務局としてもありがたいというのが1点目でございます。

加えて、全体のご意見のバランスを見てしまうと、環境の分野について、先ほど来、エネルギーと経済との関係というご議論をいただいております。これまでも、小田原の自然は皆豊かだっただけで分かっているという状況の中で、それをうまく使っていこうという考え方は分かっております。ご意見としては大きくその2点が出ておりまして、加えて環境サイドで、もう少し踏み込んだ、具体、中身というのはなかなか難しいんですけれども、ご議論がいただけるとありがたいというふうに思っております。

先ほども、少しお話ししたんですが、公民連携、若者活躍ですとか、最後のデジタルの部分ですけれども、これがそれぞれの施策展開の中で、どううまく絡んでいくかというようなご意見も書面でいただいている部分がございます。具体で言いますと、前回のご議論もありましたけれども、例えば地域の移動手段を考えた時にデジタル技術によって効率化が図られます、姿としてはどういう姿になっていったら良いかといったようなご議論も前回ございましたけれども、便利になって出なくなるのか、便利になるからこそ、より多くの人と繋がっていく、外に出ていくというような話もございますので、この辺りの論点をもう少し踏み込んでご議論いただくと、バランスを考える必要ないのかもしれないんですが、よろしいかなというふうには考えます。

【出石会長】

どうでしょうかね。結構、難しい論点もあるような気がしますけど。個別の論点はそれ

ぞれ意見が出ると思うんですけれども、一番冒頭に出てきた、市長も標榜している「世界が憧れるまち」ですか、総合計画の頂点の基本構想というのは、抽象度が高くなるけれども、やはり目指すべき目標ですよ。それがポイントになるところなので、少し議論できていると良いかなと思います。

平井委員、この市民意識調査の中では、直接その点の設問はないですよ。元々、なにか測る指標みたいな、市民がどう思っているのか、どこに自慢できるのかと言うのでしょうか、何かその辺りはいかがでしょうか。すみません、平井委員に振っても良いですか。

【平井委員】

すみません、ちょっとお待ちください。もしかしたら、提示していなかったかもしれませんが。今回ある資料で申し上げれば、先ほど信時委員がおっしゃってくださった、重要度満足という一番オーソドックスなスライドの10枚目のところで、小田原市の場合ですと市立病院と逆側ですね、満足度が高い、重要はそこそこというところで、歴史的な資産の活用というところが挙がっておりまして、この部分に関しては、市民の皆さん非常に評価を高くされていらっしゃると思います。敢えて申し上げれば、住むと行くというのはターゲットが異なる、というのも1つのご議論かと思うんですが、今となっては懐かしくもなってしまった、オーバーツーリズム問題、本当に観光の方にいらしていただくだけであれば、本当にそこでの、例えば交通渋滞が発生するとか、住む環境としては良くなってしまうという問題がコロナ前はございました。そういうふうなことで言いますと、やはり住んでの方がここは住みよいと考える、やっぱり暮らしてみたいなって思えるような、そういうふうなお客様にターゲットを絞って、いらしていただくというのも、観光の1つの戦略としてはあると思いますので、誰でも来て良いということではなくて、住んでみたいかと、そういった方にいらしていただくというのも1つ考え方としては、あるんじゃないかなと考えております。

今ので、会長の振りにお答えできたでしょうか。申し訳ございません。

【出石会長】

無茶振的なところありまして、申し訳ございませんでした。世界が憧れる1つとして、人々が訪れてみたい、それで住んでみたいというのが1つのポイントで、そこに歴史的資産などもあるんだよ、というようなご意見だと思うんですね。

これをきっかけにどうでしょう、「世界が憧れる」という論点から、基本構想として、委員の皆さん、何か意見があればお願いしたいと。はい、お願いします。

【木村副会長】

「世界が憧れるまち」は、市長が掲げたんですけれども、小田原は確かに鉄道が5路線入っていて、来る、観光とかそういうものには良いんですよ、非常に。それから外れたところ、今、バス路線、富士急さんであったり、神奈中さんであったりと。やはり、大分便数が減ってきて、その方がやっぱり、住むには田舎で良いのかもしれないけれども、交通の便が悪いと

というようなことがあるので、これから高齢化、今も進んでいるところなんですけれども、やはり車で出かけることができなくなってくると、公共交通機関がちゃんとしててくれないと無理なのかなというふうに思うので、年が上がってくるにして、車の重要度が減ってくる、その代わり、それに代わるものがないと、なかなか人口も増えないだろうし、その辺のところをもう1度、何かこう良い方向で、中に落とし込めないのかなっていうふうに思うんですがいかがでしょう。

【出石会長】

とりあえず、意見を皆さんにいただきますね。崎田委員、お願いします。

【崎田委員】

私は、前市長をしていましたので、宮崎県の日南市長をしていまして、で、まさにこの問題だったんですよね。他の地域でも、スローガンのことだと他の地域にあてはめても OK になってしまうので、かといって若い市長の思いつきでもいけないと。で、歴史を深掘りしました。

宮崎県日南市は飢肥藩という藩で、薩摩藩の大きな横で小さい藩ながらも生き抜いてきたという独自の歴史、すごく人を大事にして、生き抜いていけるだけの人を育てるんだということをするごく藩の歴史として大事にしたので、人材育成、土地が狭くても人材育成で生き抜いてきたまちだと、だから人づくりに注力するんだという、皆が納得するような、我がまち特有の歴史から立脚して、導き出したんですよね。そういった意味では、その「世界が憧れるまち“小田原”」はすごく良いと思うんですよ。そこへのアプローチとして、やっぱり小田原ならではの歴史、小田原こそ歴史があるので、北条氏があれだけ、なかなか落ちなかった城を造ってきたとか、全国の城下町のモデルとなるような城郭を造ってきた歴史であるとか、そういったところから、何かこう精神性みたいなところのエキスを抽出して、まさにこれがあるから、小田原市民の誇りになるし、このアプローチで「世界が憧れるまち“小田原”」をつくっていかうみたいなところができると、皆の腹落ち感はあるんじゃないかなと思います。

【出石会長】

よろしいですか。はいありがとうございます。

今の二人の意見を踏まえると、まず、やはり納得感というか、小田原の持てる財産をいかに生かしていくか、それと一方で、マイナスもある、今の交通の問題もそうですね、よくある話ですが、マイナスをいかにゼロにしてプラスをどんどん上げていくか、ということができれば、それが「世界が憧れるまち」になるのかなというふうには、今、聞きました。

まあ、どう総合計画に書いていくかは、これからの話でして、他にもこの点、フリーに発言していただいて良いと思うんですが、何かありましたらお願いしたいと思います。

【佐藤委員】

佐藤萌々花と申します。私が、この「世界が憧れるまち“小田原”」について思ったのが、観光面のことにたぶんなってしまうと思うんですけども、周りの同年代の友人、他県の学校に通っていますので、他県の同年代の方から小田原のこととか聞いたりすると、やはり通り過ぎるっていうんですか、通過してしまうっていうことが多いんですね。この総合計画の行政案の10頁のところに「小田原市に対してどんなイメージを持っていますか」というアンケートの結果が載っていて、先ほどのお2人からお話があったように、住みやすいだったり、歴史があるっていうのが上の方に並んでいて、恐らくそこを伸ばすのが、たぶんアピールとしてはとても良いというのは、同じように思います。

その後に、箱根、伊豆の玄関口だとか、都心に近いとか、そういう部分もやはり上位に入っていて、たぶんこの部分が強く出て、結果、車を持ってる人は違うかもしれないですけども、電車とかをよく使う学生だったりとか若い世代というのは、意外と通り過ぎてしまうという面があるんだなというふうに思いました。なので、電車だったり、車も高速道路があるからそうなのかもしれないですけども、途中下車とか立ち止まる理由が、何かそれこそ、改札口のところにあるとか、住んで分かる良さ以外にも電車に乗ってる人たちが途中で降りたいって思うような、何か分かりやすい部分も必要なのかなっていうふうには感じました。

小田原という地名を知っている人が多い割には、降りたことがある人が少ないというのを本当に感じましたので、そういったところも何か目を引くようなものがあったら良いのかなというふうに思います。以上です。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。では、意見を。さらにもらいました、遠藤委員。

【遠藤委員】

遠藤です。よろしくお願いします。私の方で、この外側からの意見が必要なんじゃないかというところを書面で出させていただいたんですけども、他の委員からもあった通り、私も「行く」「住む」というところに関しては、行ってみたいの最上級が住んでみたいになるんじゃないかなと思っているので、記述はどうするかにせよ、住んでみたいというところにフォーカスしていくのが良いんじゃないかなというふうに思っています。その上で、住んでみたいと憧れられるということは、今住んでない人が憧れて、来るということになると思うんです。なので、今住んでる人の生活を向上したりとか、満足度を上げていくというのも、もちろんだと思うんですけども、今、外に住んでいる人が何で小田原に住んでいないのかとか、逆にもしかしたら、外の人から見たら、小田原に憧れてるんだけど住んでいないのか、そういうパターンもあるかもしれないので、小田原が今、外からどう思われているのか、外の目線というのを入れて、そこにたぶん課題があって、その課題を小田原らしい魅力、小田原が持つポテンシャルで解決していくっていうのも、1つ、外から人を呼んだりとか、小

田原に人を呼ぶ、企業を小田原に呼ぶってところの、1個解決になるんじゃないかなと思っているので、そういう目線もあっても良いじゃないかなと思って、意見させていただきました。以上です。

【出石会長】

はい、今、お二人の意見は、ある意味一緒ですね。住む、あるいは観光だけでなく外から目線という。

【藤澤委員】

たぶん、また同じ意見になると思うんですけども、住むと行くというのは、やっぱり連続しているんだろうなっていうのが意見です。観光の場合ですと、モノ消費からコト消費に移行していくっていう、まあ今現実にはそうなんですけど、やっぱり住むっていうのは、そのコト消費の部分が非常に恵まれた地域だっていうようなことはあるので、やっぱり PR が重要になってくるので、訴求するためのペルソナみたいなものを設定して、訴えかけていくような話は良いのかなと思います。

あと、先ほど、交通の問題、ご意見がありましたけれども、最終的に、交通の不便者への対応というのは、MaaS とシェアリングビジネスの混合形態の中で、解決策はひょっとしたら出てくるのかなっていうのもあるので、小田原は、実際、今までもそうした先進的な取り組みをいろいろ進めておりましたので、そういうふうな部分も少し、モデル的な取り組みとして SDGs もありますし、未来都市もありますので、そうしたことも少し考えていけたら良いのかなと、これはまあ、あくまで意見です。

【出石会長】

はい、どうぞ。

【渡邊委員】

すみません、渡邊です。

私たちは普段、医療の事をメインにして地域の活動をやっているんで、まず医療としては、地域完結性っていうのがあるんですね。そういう言葉が。もう初期から最終まで全部この地域で診れるかどうかっていうのが、一つの目標になっています。まだ達成はできていない部分がたくさんあるんですけども。生活するってことは、まさにそこだと思って、この地域で全て自給自足ができる姿というのが、ここで住みたい、また住み続けられるっていう一つの大きな条件だと思うんですよ。ですから、それはまずできること。それに対しては、自然がこれだけあって、今までこの地域って自然があるんだけど、野放しにして、バラバラに好き勝手なことをやっていた、個人個人で何かやっていただけなので、それをシステムとしてどういうふうに活用できるかということを考えていく。

それから、住んでいる所、例えば、不便な所に住んで育った方は、そこで生活していても

何も不便を感じていないんだけど、年を取るに従って、要は食料とかいろいろなものが身近で手に入らなくなってしまう、これは、これからの時代は流通上のインフラとか、交通のインフラというのはいくらでも考えられると思うので、その辺は解決できると思うんですよね。

あとは、年齢層によって住まい方、住み方、住む場所っていうのを、ある程度行政として考えていく。新しいまちをつくる、要は新しい集団をつくっちゃうというのも1つの手かもしれないけれども、それは2030年ではとてもできませんから、まず、そのインフラをちゃんとして住みやすくするという、それからそれに関わって、いろいろな産業、先ほどもいろいろお話しありましたけれども、大きな企業を誘致するのも1つだし、個人個人の小さな企業をポツポツと誘致していくのも良いと思います。あと金銭的な融資、それから、それにまつわるいろいろな産業の方たちをそこに紹介してくっつけていくというのも、全部含めてなんですけれども、とにかく最終的には、この地域でこの都会からちょっと中途半端に外れて、中途半端に交通の便が良くて、ただ防災、災害を起されば孤立するんです。必ず孤立しますから。そういう時に、この地域で生き延びていけるようなまちづくりというのを構想に入れた方が良いんじゃないかと僕は思ったんです。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。では、信時委員お願いします。

【信時委員】

世界が憧れるっていうのは、最初聞いた時、ちょっとすごいなと思ったんですね。逆に、今、日本人が憧れているまちって何なんだろうということも考えたらどうかなと思うんですね。よく、今日も出たけどシリコンバレーみたいな、起業するにはシリコンバレーだよって言いますよね、スタンフォード大学に行ってみたい、起業するには。ってなことで起業する人たちにしたら神域ですよ。それから、例えば、カンヌだったら映画祭で有名だしね。年に1回行く人もいます。それから、ザルツブルクなんて音楽祭、そういうご趣味のある方は行ってらっしゃる方もいると思う。そんな大きな町ではないんですよね。リゾートだったらモナコとかね。それから、最近日本人がよくブームで行っているポートランド、アメリカのね。全米の住みたいまちナンバーワンですよ。ここも60万人くらいの都市だと思うけど。で、最近またよく行くのは、ITでエストニアですか。何か話題になったらゾロゾロ行くのが日本人なんだけど、行くだけで別に何をするわけではないんですよね。残念ながら。

だけど、そういう街々は、何をもってその憧れを引いてるかっていうようなことを、ちょっとケーススタディで考えてみるのもあると思うんですよね。自分のまちに合わないことは、全部それぞれやっていないはずなんです。自分のまちに何が資産としてあるのかっていうのを本当に、住んでいる方が住んでる自分のまちをどう憧れてるかっていうのは、非常に基本だと思うんですよね。例えば、音楽祭にしても映画祭にしても、これすごく何十年と続けてきていて歴史があるわけで、今、来年から始めたからどうっていう単なるジャストイベント

ではないんですよね。そういうふうなこともちょっと考えて、歴史や文化やどういう人材がいるかっていうことを、もう一度洗い直すっていうことはですね、本当の意味でね、憧れのまちをつくっていく基本動作だと僕は思います。

インフラが普通なのは当然なんだけれども、それ以上に憧れっていう話になってくると、やっぱり自分は何なんだと、外の人たちのためにつくっているまちじゃないわけですよね。住んでいる自分たちのためにつくるわけですからね。その自分たちが自分たちのまちを好きでない以上、世界の人たちが絶対に憧れるわけがないと思うんですね。ですから、その辺を揉んだ、まさにシビックプライドを醸成するような、これ教育もそうかもしれませんし、その辺からだと思います。SDGs 未来都市になったからといって誰も憧れてはくれない。だからそれ以上に、何を具体的にやるかっていうようなところは、やっぱりベースに気候だとか民族性だとか地域性だと歴史だとか、文化だとかいう上に何をつくるんだっていうところだと思うんですよね。だからといって、小田原が 100 万都市になるわけでもないしね。まあその辺のところで、ちょっと小さくてもきらっと光るというようなこともあると思うので、ぜひ特徴を磨いていくような、何かこの会議体でもつくったら良いかなというふうに思いますけれども。意見です。

【出石会長】

ありがとうございます。今、平井委員からチャットで、シビックプライドと出てきたんですね。よく今言われます。まちの誇りですよね。恐らく、皆さん、見方が違うんだけれども、行きつくところは一緒なんですね。今、信時委員が、「住んでいる人が」と言われたけれども、やっぱり観光客が来るっていうのは、住んでいる人たちにとっての魅力があるからだと思うし、全般的に皆さん同じ視点だろうと思うんですね。今までのところ、私の方で総括してみると、「世界に憧れる」っていうのは、結局自分たちのことでしょと、自分たちが身の丈に合ったまちをつくっていくことが、それが最終的に世界に認められるっていうか、憧れられれば良いのかなっていうような感じに今、受け止めています。

はい、では関委員、どうぞ。

【関委員】

ローカル・ファースト研究所の関です。実は私の会社、ローカル・ファーストっていうんですけれども、崎田委員、信時委員が言っていたように、まさに自分たちが自分たちのまちを好きになるっていうことなんですね。自分たちのまちが、やっぱり、人に言えるほど、素敵だから来てよ、来てよって言う人がいない限り来ないんですよ。だから、自分たちのまち素敵だから来てよって言えるまちづくりと、やっぱりそれが分かる仕掛けづくりのまちづくりの部分、あの変な言い方ですけども、黙ってても分からないので、それをちゃんと発信力なりもしくは語れるもの、語れるものは小田原なんてある意味、歴史的に見ても景観的に見ても。小田原市さんは市民学校を中心に、学ぶだけではなくて教えるという双方向が、やはり 3 つの側面をしっかりと循環できて、市民力の素晴らしさ、長年の市民力を、

相当小田原市さんお持ちだということで、それを軸にした市民学校が、やはりエンジンになって巻き込んでいける力が SDGs 未来都市としてふさわしいと評価している部分があります。

ですから、今のまちづくり、戦後のまちづくりの中での土台と、北条氏を含めた歴史的な土台、小田原城を含めた文化をしっかりと合わせて、発信力を高めて、もう一つ重要なのは、小田原市の市民の方がここを好きだと、さらに良いところだから来てよってという発信を、変ですけれども、広報としなくても SNS とかブログでも良いし、友達にしょっちゅう、ちょっと小田原に遊びに来てよって、その一言で、20 万人の方々が一人ずつ呼びすれば、20 万人来るわけですよ。ですから、そういうような、まさにローカルファーストと言われている、自分たちの資源をもう一度、自分たちが評価するというのが、この「世界が憧れる」。

例えば、プロヴァンスなんて来てくれって言ってるわけじゃないですよ。彼らが自分たちの気候を楽しんで、素敵な生活をしているからこそ、そこに行きたくなっちゃうので、まさに逆説的な皆さんのご意見に私も賛同で、やっぱりローカルファーストの視点に立った、しっかりとした、当たり前のことなだけけれども、この IT とか情報発信力を使って、皆さんに知っていただく努力を重ねることじゃないかなと思います。

既に小田原市さんは本当に良いものをお持ちなんです。当たり前すぎるじゃないかなと思うんですね。見えない、逆の意味で言えば、当たり前すぎて見えないんですけれども、もう一度、まさに確認をいただく作業が必要なんじゃないかなと思いました。以上になります。

【出石会長】

はい、ありがとうございます。今の件について、崎田委員からもチャットでコメントが出ているので、重要だと思うので読み上げますね。

「うまく言語化できるストーリーをこの計画を通じて浸透できるかだと思います。コンパクトに小田原市民が誇れるストーリーを求められるかにかかっていると思います。再度コンパクトに言語化」と出ています。

委員の皆さん、ほとんど同じ意見で、結論としては今総合計画の基本構想のところを議論していますので、当面、まずは今おっしゃられたような取り組みをどうしていくかのベースをつくろうというんですね。取り組みは事業として、市あるいは市民、事業者が皆さんで進めていくことだけれども、その個々のところですね。そうすると今のようなことのご意見を含めたものが「世界が憧れるまち」になるというようなストーリー、それをどう総合計画基本構想にまず落とし込むのかだと思うんです。大体、委員の意見はほぼ一致して出てきたと思いますので、市の方で今のことについてコメントがあれば、お願いしたいと思います。

【企画政策課副課長】

ありがとうございます。まさに 14 頁の「基本構想 1 まちづくり理念と 2030 年に目指すまちの姿」の文脈のところ、お話が出ておりました小田原のまず資源ですね、歴史ですとか文化、伝統、産業、自然環境といったところと、もう一つ、人の力があるという前提で資源を押さえていただいております。あと、都心からの距離ですとか、この時代に沿った形

での主要な要素があるというところは書かせていただいているんですが、ここの資源を生かしながら、どうまちをつくっていくかというところを基本的な前提と置かせていただいております。今日、ご懸念いただいた中で、世界が憧れるまちは住んでる人たちが憧れるまちじゃなきゃ達成できないという考え方を、ここに盛り込んでいくのが、もしかしたらストーリーとして分かりやすいのかなというふうに思っております。

当然、これから先、具体の取り組み等が入ってまいりますので、その文脈に沿った上で考えていくと、後段の部分も多少まとまりが出てくるのかなとも感じたところでございます。先ほど、住むということがありましたけれども、行くと住むの考え方がございましたけれども、我々としても、まずは住むということに関して着目した上で、住んでる人が当然良い場所だと思わないと、次に進めないよねという立場を取った上で、この基本構想を整理させていただいておりますので、まさにシビックプライド、言葉はあると思いますけれども、市民の誇りですとか、「小田原で暮らしている状況、良いよね」というような、前提をつくっていくことがこの「世界が憧れる」に繋がっていくというストーリーの一片を、この辺りに書いていくというのが、一つ方法かなというふうに感じております。以上です。

【出石会長】

はい、ではその方向でまた、進めていただければと思います。それでは、あと 30 分くらいですが、先ほど市の方からは、環境分野だとか公民連携等について、またご意見をということでしたが、ともかく全般で結構です。こういうところについて、ご意見があるというところがあったら、お願いしたいと思います。はいどうぞ。

【益田委員】

今のことにも関連するんですけれども、参考資料 2 の「小田原市の施策に対する満足度・重要度」というところで、気になったのは市民活動の推進の満足度が 5 位で、重要度は下位の 5 位という、何というか市民活動をやられてる方は、自己満足になってしまっているのかなという感じがあって、もっと市民力が重要だというふうに自分たちも思って、満足度も高まってるというなら良いですけれども、重要ではないことを一生懸命やってるみたいなのが、ちょっと読み取れてしまって、何かこれってすごく小田原市民の気持ちを表しているのではないかなって。やってるけど認められないみたいな、そこを、全市民が市民活動をやっている市民力ってすごいよね、と思えるような形になっていけば、「世界が憧れるまち“小田原”」の根底に、そこがあったら良いなというのを、この結果を見て思いました。すみません、一言言わせていただきました。

【出石会長】

ただいまの意見、非常に良いところをついているなと思いました。せっくなので、公募市民の委員の方から、もし今の意見についてコメントがあったら、お願いしたいんですが。どうでしょう、指名はしませんが。はいどうぞ。

【木村（元）委員】

木村ですけれども、市民公募ということで。上位の中に入っているというのは、やはりその活動に熱心な方はすごく、満足度があるんですよ。これは様々な市民の中のいろいろな地域活動以外のことも含めて、市全体の中での活動をやっている人は良いんですけれども、それは市民の中の一人になってしまっていて、大半の市民の方が、そういう無関心の方が、非常に小田原市の場合は多くて、その方達はこの下位5位の方に入ってきてしまうのかなと、二極化しているというのが。ある程度の規模の都市になれば、そういうのがあるのかもしれないですけれども、そういうところでこの2つ、逆行しているというような形で出てくるのかなと思います。そこをどうするかというのが、大きな課題だと思います。

【出石会長】

どうですか。はいどうぞ。

【木村副会長】

今、木村さんがおっしゃるとおりで、やっている人は満足、本当に、一生懸命やってるんで。だけど、これが、地域で知ってる人を推薦っていうか、引っ張り込むという一つの悪い事例があるんですよ。これはそうじゃなくて、市民の方から手を挙げて、私も入れてくださいよっていう雰囲気になってくると、重要度の方にも傾いているんだろうけれども、今のところは。小田原市の場合は、22年頃からコミュニティができ始めて、10年ちょっと経ったのだけれども、まだ、伝手を頼って、人を引っ張り込んでいるというようなところがあるので、どうしても、そこへ入ってきた人は満足なんだけれども、市民から見ると、まあそうでもないよということになって、こういうことになっちゃうんだろうと思います。

【丸山委員】

はい、丸山です。今の意見の中で、やはり、やっている活動が見えないというのが、たぶんあると思うんです。ただ、その活動をしないと、やっている方は満足だけれども、それを止めてしまったらもう何もない。なので、やっている小さな事なんですけど、それをいかに広げてあげて、市民の方に。自分が苦勞したとか自分が何か経験をしないと、痛みというものがないと思わないと思うんですね。ですので、やはり、行政がアピールだとか出し方だとかというのを工夫していただければ、やってる方の一人満足ではなくて、その1つが、一市民の方に助けていただいた、で1つがまた、どんどん増えていくというような流れができれば、逆転現象というか、ギャップはたぶん、なくなっていくんじゃないかなと思いますので、アピール力と言いますかね、その辺の出し方だとか、というのをちょっと工夫していただければなと思います。よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

【有賀委員】

放課後子ども教室コーディネーターをしております、有賀と申します。今、放課後子ども教室は、このコロナ禍で開催はできていないんですけれども、以前から、小田原市の市民活動団体の人に、ボランティアとして、子ども教室の方にお世話になってきました。皆さんやはり、すごく自分たちの活動の場を求めている、声をかけると喜んで、楽しんで、子どもたちのために、いろいろ活動をしてくださっています。これから、またコロナが落ち着いてきたら、市民活動団体の方には自分たちのアピールをたくさんしていただいて、私たちもいろいろな子ども教室の方に声かけをしたりして活動の場を広げていけたら良いかなと思っています。以上です。

【佐藤委員】

佐藤萌々花です。今、アピールをしていくことが大事だ、それで周知していくことが大事だというようなお話だったかなと思うんですけど、私自身が勝手に思ったことになってしまっているんですが、私自身も活動を始めるまで、小田原がこんなにいろいろ資源があるだとか、活動している方がいるって全く知らなかったんですね。中学の頃まで。本当に全く知らなくて、それで今、そういう活動する側になって、周りの友人たちも当然知らないんですね。どんな活動をされている人がいて、小田原に実はこんなものがある、というのを知らないでいます。市の方からアピールしたり、活動している方がアピールすることが大事というのは、絶対あると思うんですけども、そもそも知らない人って、そこを見ないんですよ。市のアピールしているものも見ないし、活動している方のホームページだとか SNS だとかも目に入らないんですね。SNS がそういう仕組みになっているので。なので、私としては、その最初の子供の頃とかに、今、お話してくださった子ども教室とか、そういうある程度自由な場で、もう見せる、無理やり、言い方あれかもしれませんが、見せることが必要なんじゃないかなというふうに思います。

というのも、ちょっと長くなってしまっているんですけど、私の思い出として小学校の頃に、道徳、総合の時間に地元の二宮金次郎、尊徳先生という方について、とても勉強したんですね。それをする中で、やっと全国的に農村の改革だとかをした方がいるっていう、誇りというか認識が生まれたので、そういうのがそもそもの段階に必要なんじゃないかって思うんです。私の場合は、二宮尊徳さんですけども、何か知ること、やっとその情報を拾う、アンテナが立つと思うんですね。なので、現在活動している方とか市からアピールしていくというよりは、それを受信するためのアンテナというか、知るためのアンテナを、そもそも市民の方に持ってもらう活動が必要なんじゃないかというように感じました。以上です。

【出石会長】

はい、大変良い意見ですね。他、いかがですか。

この点は、今、市民活動というところからいただきましたが、公民連携とも繋がっていて、今、佐藤委員が言われたのはその通りなんですけれども、その一方で、どちらかというと、市民活動とか公民連携を好まない市民もたくさんいるんですよね。お任せ民主主義的なのは日

本の風土としてもあるので。いろいろなパターンがあります。私は、結構いろいろな所に関わっていて、ある神奈川県内の自治体だと、すごく活性化している活動団体は浮いてしまって、他の市民からバッシングされるようなところもあるし、あるいは有名なのが、北海道のニセコ町は、小さな町だから非常に公民連携が活性化しているんですが、他方で、進み過ぎてしまったもので、市民から私たちも自分の生活があるのよと、そういうような逆説もあるんです。また、よくあるのですが、パブリックコメントにしても、市民参加にしても、行政が情報をうまく発信してないと言われるんです。だけど、いくら発信しても市民側が聞く耳を持たないという側面もあるんです。佐藤委員がおっしゃるとおり、どうアンテナを立てるのか、これすごく難しい問題なんです。すみません、私の意見を申し上げました。平井委員お願いします。

【平井委員】

今、まさに、会長おっしゃってくださった件に関してなんですが、今回、市民の皆様からのアンケート調査の中で、スライドの19番のところで公民連携に対する意識をお聞きしておりまして、「市との協働などによる全般的なまちづくり」、ちょっと聞き方もあれなんですけれども、条件が合えばということで、参加したいという、この意識に関しては、他市町村に比べて、本当に際立って30代40代の方の参加意欲が高いところがございます。ここは本当に小田原市の市民力として、この間、蓄積されてきたことだと思っていまして、小田原市には今、会長がおっしゃった、お任せ民主主義でない素地が働き世代にしっかりあるという、この機運をぜひ生かしていただきたいですし、また、先ほど来、問題になっている情報の問題も、やはり、出しているつもりでも、6割程度の方がそこが問題であるというようにおっしゃってられて、ここはちょっと、なかなか得策はないんですが、ここはやはり肝なこととをしっかり押さえて、SNSだけではなくて、なかなか今大変ですけれども、対面でお話できる、1対1で対応できる、こういったことも多重的に用意をしていく、クチコミも広げていく、こういったことがこれから必要だし、小田原の場合はポテンシャルがあるのかなと思っております。すみません、今の会長の補足なお話でした。以上です。

【出石会長】

ありがとうございます。これは、もしかすると小田原市の財産かもしれないですね。こういう統計が出ているということは。先ほどの話ではないですけど、シビックプライドに繋がる、もしくは市民力という言葉が合うのかかもしれませんが。この辺りも総合計画上も位置づけられるのではないですかね。他なければ、市の方からまた何かないでしょうか。

【企画政策課副課長】

今、お話いただいてきた市民力・地域力は、これまでの土台の部分だと思っております。ただ、先ほど来お話がありました、多くの方が、多くの方というか若者女性活躍と一緒に、全員がそれを望んで暮らしているかということ、なかなか難しいところもあるという状況だと

いうふうに思っています。ただ、これからの行政運営、あるいは小田原の市政運営、あるいは小田原の暮らしを考えていく上では、先ほど会長の方から財産だという話をいただきましたけれども、それがベースにある小田原だからこそ住み続けたい、と思っていただけるような流れをつくっていくことが大事なのかなというふうに思っています。ただ、歴史的な背景もあるんでしょうけれども、地域での関係が強すぎるから、なかなか入りづらいといったような側面だったりとかっていうのは、いくつか聞かれる時ありますけれども、やはり、こう繋がって生きていけるような小田原は、世界に向けてもセールスポイントになってくるでしょうし、これからの暮らしを考えていく上では、福祉も含めて、大事なポイントになると思っています。ですので、ここはもう本当に木村自治会総連合会長さんが、これまでご尽力いただけてきたところですので、土台として置いた上で、どう小田原のまちづくりを進めていくかという、ベースの考え方として置かせていただいているところでございます。この部分は、しっかりと計画書の中でも、今でも語っているつもりですけれども、もう一回見直した上で、確認をしていきたいなというふうに思っております。

【出石会長】

それでは、もう少し時間があります。ご意見と発言がありましたら、お願いしたいと思います。はいどうぞ。

【ジェフリー委員】

2030年の小田原の姿を考えたら、現在の起業を支えるのがすごく大事ね。小田原の農業、物流、観光、いろいろなデジタル化ができると思いますけれども、その上で、信時さんがシリコンバレーの言葉を出したんですけれども、重要なのは考え方が大事だと思います。足りないところはイノベーション、スタートアップの考え方が非常に低いと思ってます。高校でも中学でも小学5、6年生でもせっかく1台ずつiPadのようなものを持っているから、そういうところでも、総合の時間でも使っても良いと思っていますね。

あと2点目は、何回も「世界が憧れるまち」となれるようにと言っているんですけれども、一応、海外向け、小田原の活動とか、何か出してますか。どうやって海外から呼べるようなことを知らせていますか。以上です。

【出石会長】

先に矢部委員をお願いします。

【矢部委員】

ありがとうございます。外国人の観光の、外国人のここの話の追加なんですけれども、自分の知人の外国籍の方が小田原に来ていただいたんですけれども、小田原は外国人観光客に向けての配慮がなさすぎるという厳しい意見をいただいて、そういうところで、しっかりしていないと「世界が憧れる」というところで、外国人観光客に来ていただいて、そこから

小田原こんなにすごかったよ、もう一回行ってみたいとか、そういうふうに発信していただくことで、世界から憧れられるまちになると思うので、そういうふうに、55 頁の 3 番、主な取組のところに「海外向けプロモーションの実施」とあるんですけども、そのプロモーションの実施をする前に、まず小田原の外国人観光客に向けての基盤というか、バスでの外国語表記とか、そういうところの基盤をしっかりとしていかなければいけないのかなと、感じました。以上です。

【出石会長】

はい、新しい視点ですね。「世界が憧れる」の、まさに世界、外国人に対してとか、外国に向けて、という意見が今いくつか出ましたが、他にもどうでしょう。今の点からご発言がありますか。とりあえず、良いですか。今、2 点ほど意見がありました、市側の方から所見等で見えますか。

【企画政策課副課長】

正直、海外との接点をどうつくっていくか、という具体のアクションに関して言いますと、観光、国際交流がメインでございます。観光で言いますと、神奈川県さんとの連動もあるんですけども、対ベトナムですとかっていうところがあるかなというふうに思っておりますけれども、コンテンツとしての忍者、お城、歴史みたいなところはあっていると思います。

矢部委員からご指摘があった、海外から来られる方の環境整備が足りないという、プロモーションと合わせてという、ここは、訴求の部分、プロモーションの部分と環境整備は両輪だと思っておりますので、ここは現実のお話として、まだ足りないというご意見だと思いますので、そこは施策展開の中で整理していくというお話になろうかな、というふうに思っております。あと例えば、木工やってるラルースさんの木の器が、ディオールショールーム、フランスのショールームで飾られるですとか、そういった小田原の技術、あるいは伝統産業が、海外で価値を持っていくというような流れは、いくつかあるかなというふうに思っております。我々、小田原に住んでいながら、自分のところの伝統産業をあまり見ていない部分があると思います。ただその価値って、世界に飛んだ時に違う価値を持って、また脚光を浴びるというような面もあろうかなというふうに思っておりますので、どれをやったら世界が繋がるかという、産業面ですとか観光面、あるいは子どもたちの国際交流面というアプローチ、あとは働く方、外国人で日本で働いている方、そういう視点で接点をというのは、今、想定できる場所ではあるんですが、憧れるの文脈の中では、先ほどお話しが出ておりました、住んでる人が「小田原は住んで良い所だね」という状況をまずつくっていった先に、世界との接点をどう繋いでいくかというようなアプローチかなというふうに事務局としては考えているところでございます。

もう一つお話しがあった、起業の面でございますけれども、農業とか物流、観光、DX を入れながら、産業をどうしていくかという議論はございますけれども、今まさに、スーパーシティの申請に向けて、DX を街中にどう入れていくかという議論も進んでおります。前回いた

だきましたけれども、デジタル化に関しては、デジタル推進の文脈だけではなく、経済の文脈の中でも、どういう形で使っていくかというような言及は、まだまだ足りないところかなというふうに思っておりますので、この基本構想のタイミングで、どこまで書けるかというのは、今まさに検討中ですので、ちょっと心もとないところもありますけれども、こういった DX を使いながら、既存産業との関係性をつくっていくという文脈は一つあるんだろうなというふうに認識しております。

世界との繋がりに関しては、まだ見えていないところもございますので、これからの議論になろうかなというふうに、今思っているところでございます。

【木村副会長】

実行計画の23番「住環境の形成」の中で、市営住宅の問題が出ていると思うんですが、今市営住宅も高齢化が進んでいて、空きが多いと、それと若い人がなかなか入ってこないという話を聞くんだけど、この辺は、せっかく市営住宅があるのに若い人が入ってこないというのは、市の方で検証したことはあるのかな。

【出石会長】

ごめんなさい。今、副会長の方から実行計画の施策23のところの意見が出たんですが、その個別の論点は、その時やりますので、皆さん、そういうことすみませんをお願いします。

では今の件は、ただコロナでインバウンドという言葉が消えてしまっていますが、いずれ戻ってきますから、ちょっと短絡的かもしれないですが、「世界が憧れる」が、外国人のインバウンドが来ることとイコールではもちろんないけれども、やはり地域の活性化という観点とかを踏まえるといずれは出てくる話ですから、まあ総合計画にどう書くかということではなくて、これから念頭に持っておかないとまずいではないですかね。

はい、ということで良いですかね。他いかがでしょうか。はいどうぞ。

【有賀委員】

前回、ご意見があったところなんですけれども、今日のたたき台、6頁、「生活の質の向上」で2つ目のポチになります。子育てのところで、「子育てに夢や希望が持てるまち」という表現があって、これは「夢や希望を持って子育てができるまち」が良いのではないかということと、その一番下、「子どもの立場からの視点で1つ記述を加えてほしい」ということが書いてあります。ここの表現の仕方については、「子育てに夢や希望が持てるまち」のままで良いのかどうか、あと、今日のアンケートの結果で14頁に20代30代の子育て世代が、あまり安心して子育てができる地域ではないと考えていることが多いといったところで、やはり子育てについては、大事な部分ではないかなと感じましたので、この辺りの表現の仕方についてご検討よろしく願いいたします。

【出石会長】

そうですね、これ前回も出ていたところですので、今、市はどのように考えていますか。

【企画政策課副課長】

ありがとうございます。前回もお話しさせていただいたのですが、どちらかというと親目線に立っているというご指摘をいただいた中で、子どもの視点に立った記述の方法があるのではないかと、ご指摘をいただいております。ここは今検討させていただいているところでございます。表現的にどこまで入るかというのは、また最終的な案として、基本構想の最終形としてはお示しますけれども、皆さんのご意見を受け止めた中での検討を進めているという状況でございます。

加えて、子育て世代、まさに子育てされている世代にとって、子育て環境がまだまだだよって言われているところは、大きな課題だと認識してございます。小田原に住んでいただく上でも、主要なターゲットといたしまして、当然子育て世代の方に来ていただくという文脈を、後段の人口シナリオでも描いております。そうなってくると、住む場所、あるいは働く場所に加えて、先ほど防災というお話もありましたけれども、医療、福祉ですとか、教育ですとか、子育て環境を中心に、やはり手厚くと言いますか、ちゃんと環境は整ってるんだよというのが、その決定の要因になってくるというふうに思っておりますので、この子育て、加えて教育の部分に関しては、子育て世代の訴求という意味で、質を高めていく取り組みを後段の実行計画の中でも記載させていただいているところでございます。以上です。

【出石会長】

では、次回、議論としては30分程度になってしまいます。その中で示されると思いますので。他、いかがでしょうか。大体、議論は出尽くしたということでしょうか。

それではですね、ここの基本構想の部分の質疑は、以上とさせていただきます。先ほどもありましたが、この後も説明があると思いますが、次回、第一次答申として、基本構想部分の答申について30分程度時間をとって、再度確認をしていきます。内容的には、ご承知のとおりですけれども、基本構想どうしても抽象的なものですから、それを受けた実行計画の議論が次回から始まります。ということでしょうか。

では、次第は(2)その他になります。委員の皆様から発言はございますか。その他。よろしいですか。では、事務局から何か連絡事項等ありますでしょうか。お願いします。

2 議事 (2) その他

【企画政策課主事】

事務局からご連絡事項が3点ございます。

まず1点目です。先ほど出石会長からもお話がありましたが、次回の日程に関してです。当初、10月4日は実行計画案の審議のみとしていましたが、答申案の協議を30分とらせていただきます。当初は1時から3時までの予定でしたが、会議の時間を2時間半取らせていただき1時から3時半までとさせていただきます。

続いて2点目。本日までの間に、委員の皆様にはご連絡させていただきましたが、第10回目の会議を、12月6日とお示しさせていただいておりましたが、12月9日木曜日の2時から4時に変更させていただきます。

3点目。第2回会議の際にお話がありました、この審議会の議事録に関してです。会議日程が集中している際でも、会議前に議事録を提供させていただきたいと思っております。ついでに、会議日程が集中している第3回～7回については、皆様がどのような発言をされたかという形を概要として示させていただきたいと考えております。なお、皆様がそれぞれの発言を詳細に確認されたい場合には、YouTubeでは当日の様子が動画で確認できますので、各自ご確認をいただきたいと思います。

事務局からの連絡は3点。以上になります。

【出石会長】

議事概要になるということは、むしろその方が良いですね。長いと読むの大変ですからね。では、議事概要、次回以降の審議の前提として出していただくということですね。分かりました。では、本日予定しておりました議事は全て終了いたしました。

3 閉会

以上をもちまして、会議を閉じたいと思います。皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。

上記の内容に相違ないことを確認します。

小田原市総合計画審議会会長 **出石 稔**